

と呼びます。「PBRが1を超えていくと」逆に損失が発生することになります。「自分が投資した分より少ない金額が戻ってくるので、安定性に欠けている」という意味です。
 したがって、一般的にPBRが1以下だと割安で安定性があると思われるので、投資家にも買われやすくなります。一方1以上になり、徐々に大きくなると安定性に対する信頼が揺らぐので、割高だと判断されやすくなります。

4 予想増益率「これからもしっかり稼ぐか」がわかる

まだそのよさに気づかれていない、資産的にも安定しているなら問題なさそうですが、企業はやはり稼ぐ力が大事です。稼ぐ力は決算書類などを見て、利益を生み出しているか、利益率はいいかなどでチェックすることもできます。

しかし、利益率だけ見ても、それは今この瞬間の話であって、それが将来も続くかは不明です。これからも伸びることができているかを確認するのに大変有用なのが、「**予想増益率**」です。予想増益率は言葉どおり、「**現在ではなく将来にどれだけ利益が増えるか**」を表す数字です。この予想増益率を同業種と比較したり、市場全体の増益率と比較することで、その会社の将来性を図ることができます。

予想増益率の情報と業種の中での比較は、ヤフーファイナンスなどで簡単に確認することができます。検索および比較の方法は後ほど詳しくお話しします。ここでは、まず確認ポイントを押

さえましょう。

1 予想増益率が

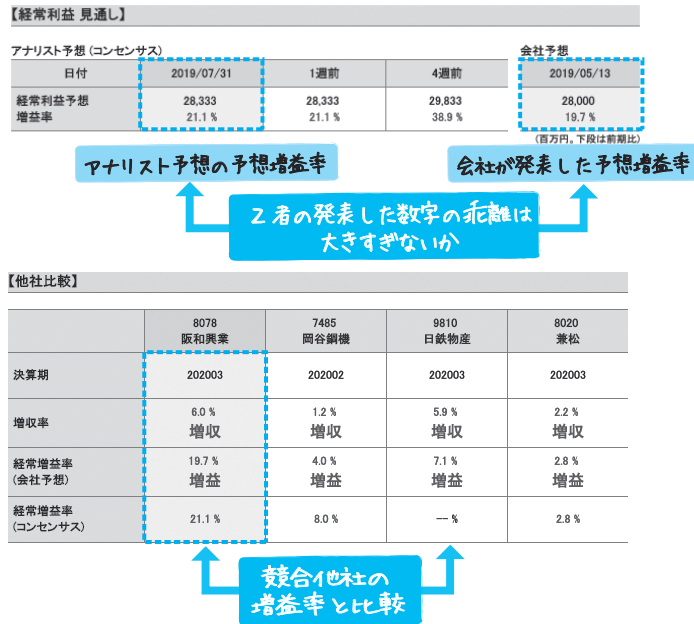
競合他社に比べて高い

当然のことですが、利益があるだけでなく、よりよい高い利益を出す企業が投資家には注目されます。その中でも、「**増益率**が競合他社と比較しても高い」ほうが注目を集め、買われやすくなります。

2 会社発表の資料だけに頼らない

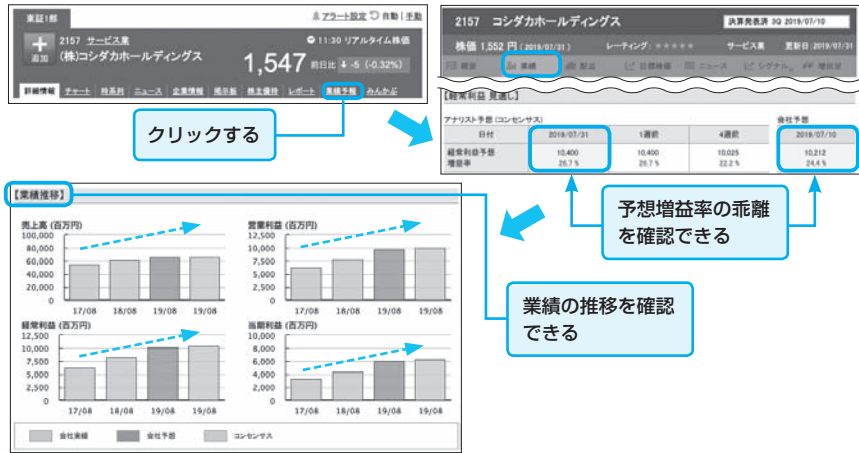
予想増益率は、会社が発表したものです。日本の会社は、予想をなるべく「保守的な数字」として発表する傾向が強いですが、たまには「何を根拠にこんな数字を出している？」と聞きたくなるような数字もあります。会社の資料だけを確認していたのでは、客観性の確保が難しくなります。

● 予想増益率の確認ポイント



STEP 1 会社の予想とアナリストの予想を比較する。

Yahoo!ファイナンスを開いて、銘柄を検索したら、「業績予想」タブをクリックします。「株予報」という名前で業績の進捗状況などを集めたページが開きます。証券コードと社名の下に、業績に関する情報が集められています。予想増益率は、まず会社の予想とアナリストのコンセンサスが大きく乖離していないかを確認します。



STEP 2 「予想増益率」を競合他社と比較する。

「業種」タブの下で業績が比較できます。

競合他社との業績比較ができる

【他社比較】	2157 コシダカH	2344 平安レイ	2382 夢見H	2341 アルバイタイム
決算期	201906	202002	201909	202002
増収率	7.0%	3.1%	23.7%	-8.9%
増収	増収	増収	増収	減収
経常増収率 (会社予想)	24.4%	-5.6%	21.5%	-14.4%
増益	増益	減益	増益	減益
経常増益率 (コンセンサス)	25.7%	-	-	-

STEP 3 PER/PBRなどの投資指標の割安度は「みんかぶ」でグラフを通じて確認することができる。

Yahoo!ファイナンスの銘柄情報ページで「みんかぶ」タブをクリックします。みんかぶに移動して表示されるトップページから「株価予想」をクリックします。

②みんかぶに移動してから「株価予想」をクリックする



(次頁に続く)

©Yahoo!ファイナンス

ファンダメンタル情報を効率よく集めるプロセスの動画を本書特典サイトに用意しました。ぜひ参考にしてみてください。

特典動画⑦ ファンダメンタル情報の集め方 (<http://www.tbladvisory.com/book001>)

他社や同業種間の比較もクリックひとつでできる

現状を把握することができたら、今度は「比較して分析する」順番です。たとえばPERや増益率はその会社の情報だけを見てもダメでしたね。大事なのは業種別・同業他社との比較と、将来の予測です。これも1、2回のクリックで可能です。

「株予報」「みんかぶ」のページからサンプルの会社を分析してみる

Yahoo!ファイナンスからクリックして確認できる「株予報」「みんかぶ」のページからサンプルの会社を分析した結果は、次のようになります。

- ① 現状は、増収・増益が続いている **STEP 1**
- ② 将来もしっかり増益する見通しで、その水準も競合他社との比較ではいいほう **STEP 2**
- ③ PERは業種の中で割安でまだ人気が出ていない **STEP 3** **STEP 4**

同じような条件なら、この会社を選ぶことが合理的だということになります。サンプルの会社を使って、ファンダメンタル情報を業種比較するプロセスを本書特典サイトに用意しました。ぜひ参考にしてみてください。

特典動画⑧ ファンダメンタル情報の比較分析
<http://www.tladvisory.com/book001>

2 集めた情報を比較しよう

ここからは、実際に2つの銘柄をピックアップして比較・分析する過程を見ながら、ファンダメンタル分析を進める実践的なスキルを身につけます。ここまで理解できるようにになると、利益をあげるためのスキルはほとんど完成です。銘柄選びから投資先の選定までを世界一わかりやすく伝えるので、しつかりついてきてください。
 ひとつお断りしておくことがあります。

ここでの比較は「客観的な数字に基づいた分析」であって、「個別に会社に対する感情は一切入っていない」ということです。例示している会社の関係者に誤解を招かないように、公表された数字に基づき分析したということと、本を手にしていくタイミングではすでにこれらの情報は変化しているというをお断りしておきます。

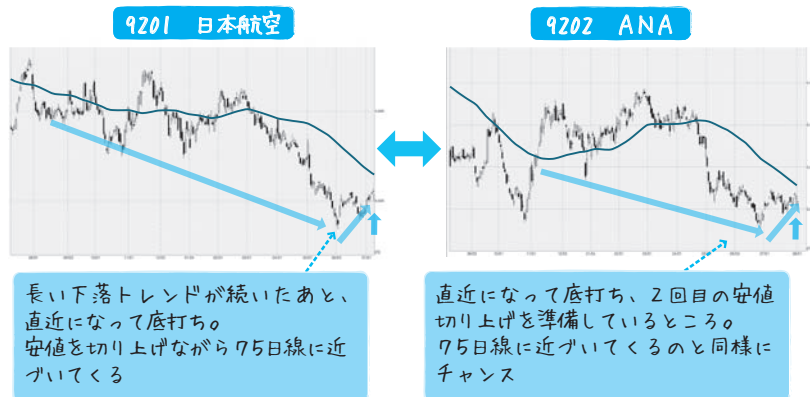
同業2社のチャートが同じ形で並んでいる！

下図のチャートは、ある日の同業種の2銘柄の状況です。

2銘柄とも、長い下落トレンドが続いたあと、直近になって底打ちになっています。つまりこれ以上は下がっていかないといいことです。底を打ってからは安値を切り上げながら75日線に近づいてきているという共通点があります。

明日から早速買っていくことはできませんが、しばらく待つて、株価が75日線に近づいてくると大きなチャンスが訪れそうです。しかし、問題はチャートの形だけを見るとどちらも絶好のチャンスに思えるので、どちらを買うべきか決めることができないということです。

● 同業2社のチャートが同じ形で並んでいる



STEP 4 株価予想のページで「株価診断」をクリックすると、PER/PBRの相対比較をグラフで確認することができる。

ここで「日本株全体」「同一業種分野」など、比較範囲を変更しながら割安度を確認することができます。この場合は、同一業種分野の中での比較を表し、まだ割高の領域に入っていないことを示しています。



「株価予想」ページで、「株価診断」をクリックする

PER/PBRの相対比較をグラフで確認することができる。この場合は、同一業種分野の中での比較を表し、まだ割高の領域に入っていないことを示している



かぎられた資金で、より多くの利益をあげてくれる銘柄に絞り込みたい個人投資家は悩みます。この悩みのはじまりが、ファンダメンタル分析の出番でもあります。

同業2社のファンダメンタル分析をしてみる

この日のファンダメンタル情報を集めて表示したのが下図です。「まず会社予想に基づいたPERを比較」すると、日本航空のほうがやや割安になっていることがわかります。しかし、その差は1倍以内なので、そんなに意識しなくてもよさそうです。

そこで「PBRを見る」と、2社とも1に近く安定性があると同時に、割安圏に入っているのがわかります。こちらも日本航空のほうが若干低いです。違いは0.1倍ほどで目立つような差があるとはいえない範囲に収まっています。

ここまでの比較分析を見ると、PERとPBRが若干すぐれている日本航空のほうが優良銘柄のようですが、両方とも割安と見られるに無理はない株価になっています。

その理由からもここに留まらず、もう一步踏み込むと、根拠が強くなり、自信を持って投資することができるようになります。

● 投資指標の比較

9201 日本航空		9202 ANA	
【想定株価レンジ】		【想定株価レンジ】	
投資指標		投資指標	
PBR	1.04 倍	PBR	1.13 倍
PER (金予)	10.5 倍	PER (金予)	11.4 倍
PER※	10.2 倍	PER※	10.7 倍

※アナリスト12ヶ月後予想

同業2社の業種比較をもつ一步踏み込んでみる

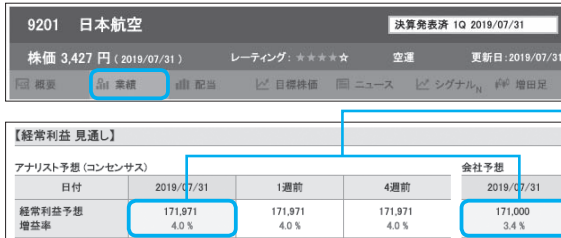
「業績」タブで収益性を比較してみます（次頁図参照）。「まず、経常利益の予想増益率を見る」と、日本航空の会社予想3.4%に対して、ANAは2.1%と日本航空の増益率が高くなっています。それに加えて、日本航空のアナリスト予想と会社予想の乖離は大きくなく、会社予想のほうが保守的に設定されているので信頼性が高くなっています。その反面、ANAの乖離は大きくありませんが、会社予想のほうがポジティブに設定されていて少し違和感があるのが現状です。

「次に日本株全体でのPER・PBR相对比较」を見ると、どちらも割高の領域には入っていません。増益率を考慮した業績の推移を入れて総合的に考えると、日本航空のほうが注目されやすいと結論づけることができます。

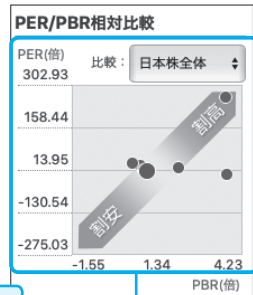
次はこの問題あり！

これで、タイミングにあう銘柄をピックアップし、数多い候補者の中から本命を絞り込むことまでできるテクニックが身につきました。もうこれで無敵と思ったら、また別の疑問がわいてきます。上場している会社だけでも3500社以上と星の数ほどある銘柄の中で、プロの投資家たちはどこで銘柄を仕入れて、仕入れた銘柄をどのように管理しているのでしょうか？ 7時限目では、プロの投資家が使っている銘柄選びと管理方法をお話しします。銘柄選びまで最高速でできるようになることで、プロのトレーダーと同じラインに立つことができます。

● 日本航空の分析

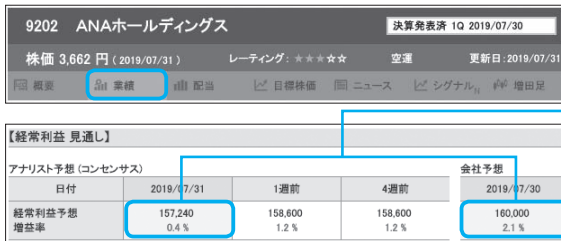


両数字の乖離は大きくなく、会社予想のほうが保守的に設定されているので大きな問題はない

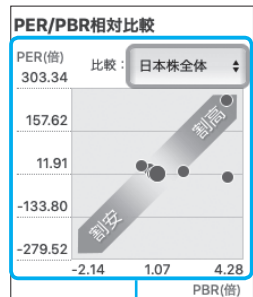
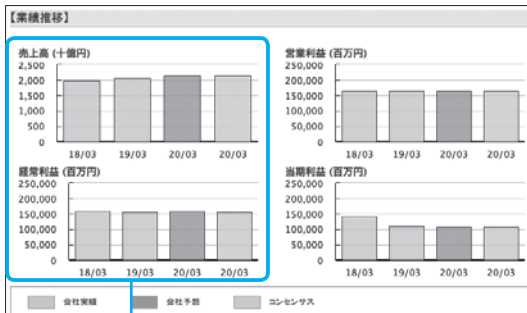


業績の推移は増収・増益、PER/PBRも割高圏に入っていない

● ANAの分析



両数字の乖離は大きくないが、会社予想のほうがポジティブに設定されていて少し違和感がある



業績の推移は日本航空同様、増収・増益、PER/PBRも割高圏に入っていない (日本航空よりは若干の割高)